



# 明化の教育

6月号(第468号)  
令和元年5月31日  
文京区立明化小学校  
校長 溝畑 直樹

## 相手を思う

副校長 松下 由紀子



支援を実演している様子

保護者の皆様におかれましては、日頃より学校の様々な活動へのご協力、感謝いたします。今年度が始まり、2か月が過ぎました。5月18日(土)には、令和初の学校公開を開催し、子ども達の授業の様子を多数の保護者、地域の皆様にご参観いただきました。

この日は、東京都・文京区が共催の道徳授業地区公開講座を併せて実施しました。道徳科の授業を行うとともに、東京都立文京盲学校の青木隆明先生に「見えにくいことについて知ろう」と題してご講演をいただきました。講演内容は、視覚障害者の方の中でも以前は見えていた人や明るい場所だと見えづらい人など様々な状況の人がいること、自分たちの身の回りに視覚障害者の方のために工夫されているものがあること、支援の仕方などを教えていただきました。また、私たちが支援をする際は、「何かお手伝いできますか」と相手の困っていることを聞くとよいとアドバイスもいただきました。困っている人がいると「～してあげなくては」と自分の勝手な思い込みから支援の中身を考えてしまいがちです。しかし、今回教えてもらったように一言相手に尋ねることで、普段の生活の中でも相手に寄り添ったよりよい支援ができるようになると思いました。

この講演では、4年生の時に総合的な学習の時間で視覚障害者について勉強した5年生が、大きな声で青木先生の問いかけに答えていました。声で知らせることの大切さを知った上で見本として示し、実践してくれていました。その影響か、帰りがけに青木先生に会った1年生が何人も、青木先生の顔を見ながらはっきりした声で「さようなら」と言っていました。思いを声で届けようという意思が伝わり、思わず微笑んでしまいました。青木先生のお話は、相手のことを思い行動するとはどういうことかを考えるよい機会となりました。

最後に青木先生が、見える人は見えることを大切に、いろいろなものをしっかり見てもらいたい、見えることの素晴らしさを感じてほしいとおっしゃっていました。6月1日の運動会でも、子ども達同士でそれぞれの学年が一生懸命頑張ってきたその成果を、しっかり見てほしいと思います。

### 【明化小学校埋蔵文化財調査に伴う校庭の使用について】

6月5日より、校庭の埋蔵文化財調査が始まります。埋蔵物は、縄文時代、江戸時代のものがあるそうです。貴重な機会ですので、安全に気をつけて、発掘調査の様子も見学させてもらう予定です。調査が始まると、校庭は9月末まで使用できません。そのため体育は体育館及びプールを主な活動場所とすること、休み時間は体育館、北校舎屋上を使用すること、放課後遊びは体育館になること、明化こどもひろばは、水曜日は図書室及び体育館、土日は林町小学校校庭での活動を予定しています。詳しくは、令和元年5月29日に配布しました「明化小学校埋蔵文化財調査について」をご覧ください。